

第1回茅野市地域創生総合戦略進行管理有識者会議

開催日時	平成29年10月11日(水) 午後1時から午後3時まで		
開催場所	8階大ホール		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容(概要)		
	<p>会議次第</p> <p>1 開会</p> <p>2 挨拶</p> <p>3 委嘱</p> <p>4 報告事項</p> <p>(1)国勢調査から読み取れる茅野市の現状</p> <p>(2)第5次茅野市総合計画 将来展望人口について</p> <p>————— 一括説明 —————</p>		
事務局			
委員	<p>資料2のP3の図表2ではH27の前回推計が55,557人になっていて、P6の図表6では55,171人になっているが、この差は何か。</p> <p>また、資料1では数字の説明だけだったが、例えば人口ビジョンとの比較では老年人口が1,611人多い結果となったその要因は何か等の説明が欲しい。</p>		
事務局	<p>図表2はH22の国勢調査を基にした社人研ベースの推計の人口で、図表6は同じようにH22の国勢調査を基にしているが茅野市独自に推計した人口のため、差が生じている。</p>		
事務局	<p>ご指摘いただいたとおり単純に数値の比較のみの資料となっている。国勢調査結果や人口ビジョンとの定量的な比較から見込みよりも生産年齢人口が減少していて、老年人口が増加しているということを認識してもらうために作成した資料である。数値の分析については、協議事項で触れる項目もあるので、そのときに議論を深めてほしい。</p>		
	<p>5 協議事項</p> <p>(1)会議の進め方について</p> <p>————— 説明 —————</p> <p>質問・意見は特になし(※会議の公開について了承される。)</p>		
事務局			
事務局	<p>(2)基本目標ごとの各取組の実施状況について</p> <p>————— 説明 —————</p> <p>【基本目標1について】</p>		
委員	<p>数値目標の市内事業所就業者数が増えているとのことだが、茅野市だけが増</p>		

	<p>えているのか、それとも他市町村も増えているのか。</p>
事務局	<p>平成 28 年度の経済センサスの速報値によると、平成 24 年度から事業所数が増えているのは県内 19 市のうち茅野市のみとなっている。就業者数は増えている市と減っている市はおよそ半々であり、最も増えたのが安曇野市の 9.3%で、次いで茅野市の 8%の増となっている。景気の回復にともなって就業者数が増えていると考えられる。</p>
委員	<p>出産適齢期の女性が増えないと人口も増えていかないと思う。国勢調査結果の女性の人口や、就労している女性の割合、諏訪東京理科大学の過去の女性の入学数・就業者数の資料がほしい。</p>
事務局	<p>できる限り用意する。</p>
委員	<p>金融機関から見た情勢として、制度融資あっせん事業の利用は金利情勢から大口はあまりないが、小口の新規開業資金に利用されることは多い。資金需要としては設備投資をしたい企業が多く高まっている。ただ、人手不足が深刻になっていて、設備投資したくても、それを扱う人がいなくて投資できず受注を逃しているということがある。実際に人手不足を外国人や派遣会社からの派遣で補っている企業も多い。</p>
委員	<p>空き店舗等活用事業の活用エリアを見直すところがあるが、どのような見直しを考えているのか。</p>
事務局	<p>現在の制度は中心市街地を対象としている。空き家・空き店舗は市街地に限らず多くなっているので、対象となるエリアを幅広くする方向で検討している。これは第 5 次総合計画の策定に合わせた産業振興ビジョンの見直しで議論しているところである。</p>
委員	<p>老年人口が増えているということで、老年者の就業支援、雇用拡大が必要だと考えている。退職後に家にこもってしまうと健康状態も悪くなる傾向がある。中高年者等雇用促進事業があるが、具体的にどのような事業か。</p>
事務局	<p>今年度から奨励金の対象に子育て中の女性を加えた。奨励金は 1 人つき 5 万円だが、総合戦略期間内は倍の 10 万円にしている。</p>
事務局	<p>65 歳以上の方の働く場所の提供については、国の施策の動向を見ながら商工課と連携して検討していく必要があると考えている。</p>
事務局	<p>高齢者の働く場や社会参加の場をつくることは大きなテーマとなってくる。どのようなことができるか、企業の考え方も大切であり、どういう施策が必要か検討していきたい。</p>
委員	<p>私の会社では 65 歳を区切りにはしているが、技能者は希望があれば延長雇用をしている。肉体労働を伴う仕事だと本人も退職したい意向があるので、業種の変更も検討したりしている。</p>

委員	家で介護していて、働きに出られない人がいるが、国全体で見るとある意味では従業員だと考えられるが、介護している人への補助金というか優遇は考えられないか。
事務局	介護保険制度は、介護保険を利用してもらい従来の介護者が社会で活躍していただくことを一つの目的としている。ただ、市では対象となる介護者に就労という意味合いではないが介護福祉金を交付している。
委員	健全者に限らず障害を持っている人であってもお願いできる仕事がある。仕事に慣れるまで時間がかかるので、なかなか企業側では受入れが難しいところもあるが、就労する場をつくることで、障害者の支援にもなる。そういった可能性のある業務を見直していくことを各事業者ができれば地域の大きな労働力にもなる。
事務局	自宅で子育てや介護をしている人への就労支援という面で、観光まちづくり推進室では、自宅でお客様を迎えていただいて、滞在プログラムのインストラクターになってもらい、お金を稼ぐ、生きがいにつなげるということを進めていきたいと思っている。実際に笹原地区でその準備を進めていて、来週にはイタリアの料理学校の人が笹原の 89 歳の人の方を訪ね料理を学ぶというを行う。
委員	<p>【基本目標 2 について】</p> <p>移住の年齢層が下がってきている。今月秋の移住ツアーで楽ちの倶楽部とバーベキューしながら語り合う会を予定しているが合計 50 人を超える大勢の参加がある。まだ 1 歳にならない子どもを持っている人も参加するぐらい傾向として若い人が移住を望んでいる。</p> <p>企業の雇用という面では若い人と 50 代ぐらいの早期退職者を対象とした中途採用が増えてほしいと思うことが多い。移住を望んでいる人はそれなりのスキルを持っているので、若い人はこれから中堅の社員として育ててほしいし、50 代の方は管理職をしていた人が多いので若い人への教育もできる。企業からは人が欲しいというお話をいただくことが多いので、移住者のそういった面を上手く利用してほしいし、働く側に上手く紹介できればと思う。</p> <p>移住者の多様化も進んでいて、農業や林業をしたいという人もいて、実際に農業で生計を立てている人も出始めている。高齢化が進み、ご主人が亡くなってトラクターとかが車庫にあるが使えない人がいるので、そういった機械を移住者が上手く利用できる仕組みがあれば農業の活性化につながると思う。</p> <p>茅野市の子育て支援は素晴らしいと思うので、全国的にアピールできればいいと思う。またそういった情報が分かりやすく伝われば安心して移住できると思う。</p>
事務局	移住されてくる方がスキル持っていて実際にいろいろなところに就職していただいている。市でできることとしては、離転職者の説明会に合わせて移住のツアーを組んだが、できるだけどういった仕事に就きたいか把握する中で上手くマッチングに持っていければと思う。

	<p>楽園信州ちのの事業で行っていただいているが、職業あっせんの企業の株式会社ミットと提携を結んで、移住者がそこに相談することによって、企業や職業をあっせんすることも行っているので、そちらも利用していただければと思う。</p>
事務局	<p>子育て支援のメニューについては、ハンドブックのようなものを来年度にはつくるようにする。</p>
委員	<p>県外の工場や研究拠点が茅野市内に移転してくると、そこに新たな雇用が生まれるので非常に良い話だとは思いますが、市内の既存企業の経営者からすると人がとられてしまうという心配がある。ただでさえ人手不足の状況で、今の従業員まで他の企業に移ってしまうのは困るという話を聞く。 市外から新たな企業が移転するときに、従業員も連れてくれば、まとまって人も増えるので、そういったことにインセンティブが働くような施策があればいいと思う。</p>
委員	<p>地方創生が始まって移住者の取り合いのように言われているが、そうではなく国の考えは的を射ていると思う。首都圏は色々なものが飽和状態になっていて、地方に分散することはいいことだと思う。移住してきたい人は多様な目的があって、生き方も多様化している。茅野市に移住したい人も駅周辺のマンションが良い人もいれば、別荘が良い人もいるし、山の中が良い人もいる。取り合いという概念ではなくて、移住を考えている人に情報を提供していくということだと思う。長野県は移住先として人気はあるが、黙っていても茅野市に来る訳ではなく、移住を検討している人に茅野市を選択してもらうために手を尽くしているところから PR していくことが必要。 佐藤委員が言っていたが、実際に小淵沢にももとは渋谷にあった本社を移転し、社員も一緒に移住してきた会社がある。そういう可能性もあるので考えてほしい。</p>
委員	<p>IターンやUターンでカフェやレストランを開くのがブームになってきている。そういった取組は個人として応援したくなるし、応援してくれる人が増えれば盛り上がっていくと思う。</p>
委員	<p>子育て中の女性の就労支援を考えるとまず保育園に預けるということだと思う。茅野市の保育は日本一だと思うし、安心して子どもを産んで育てられる地域でもあると思う。受け入れてくれる産婦人科もあるし、出産後もファミリーサポートがある。それを冊子だけでなく、ネットや口コミで広げていくことも必要だと思う。</p>
委員	<p>茅野市では不妊治療に年齢制限がなく助成してもらえる。他市町村では年齢制限を設けているところもある。出産年齢が遅くなってきていて、こういった施策は心強いと思う。子育てだけでなく、子どもをつくることから支援してもらえるのはいいことなので、積極的に PR してほしい。</p>
委員	<p>移住してきた人や茅野市に住んでいる人が、子育てや医療のことなどで困ったとき、茅野市には様々な団体があって支援しているので、その団体のリンクを市の HP に貼ってほしい。</p>

事務局

HP のリニューアルを平成 31 年に予定しているので、HP 内の検索ワードなどから見やすい HP づくりをしていきたい。

また、現在は多くの情報をただ単体の情報として発信している。これから交流人口や移住者の増加を狙っていくには、子育てや健康づくりなど様々な情報を組み合わせシティプロモーションとして茅野市を発信していくことが必要だと考えている。

委員

移住者の年齢の幅が広がっているとの話があった。若い人が移住するときは仕事が変わるので、ローンも組みづらく、手持ちの資金も乏しいので、賃貸や中古住宅を探す人が多く、いきなり新築にはならない。原村や富士見でそういった物件が多い。茅野市は普通に暮らすにはハードルが高いのかもしれない。

6 その他

7 閉会